

平成26年1月15日(水)
一中地区懇談会

市の財政状況と市立病院の方向性

銚子市

1

1. 今後の財政収支見通し

(平成25年5月15日時点)

○歳入歳出総額・実質赤字比率等の推移

(事務事業の見直しを行わずに現状のまま推移した場合)

単位:百万円、%

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歳入総額	25,108	25,685	24,720	23,879	22,764	21,438
歳出総額	24,371	25,436	25,346	25,020	24,580	24,130
実質赤字額	737	249	▲ 626	▲ 1,141	▲ 1,816	▲ 2,692
実質赤字比率	-	-	4.10	7.47	11.89	17.62
(参考)単年度赤字額	-	-	▲ 626	▲ 515	▲ 675	▲ 876

区 分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
歳入総額	21,431	21,415	21,377	21,378	20,898
歳出総額	24,725	24,991	25,153	25,324	25,437
実質赤字額	▲ 3,294	▲ 3,576	▲ 3,776	▲ 3,946	▲ 4,539
実質赤字比率	21.56	23.41	24.72	25.83	29.71
(参考)単年度赤字額	▲ 602	▲ 282	▲ 200	▲ 170	▲ 593

※実質赤字比率 = 赤字額(累積) ÷ 標準財政規模(平成24年度 15,278百万円)
(標準財政規模は、本来、年度ごとに変動するが、今回の収支見通し上は、平成24年度標準財政規模と同額にて算定している。)

3

○実質赤字比率が早期健全化基準以上となる場合

自主的な改善努力により、財政の健全化を図るため、「財政健全化計画」の策定が必要

○実質赤字比率が財政再生基準以上となる場合

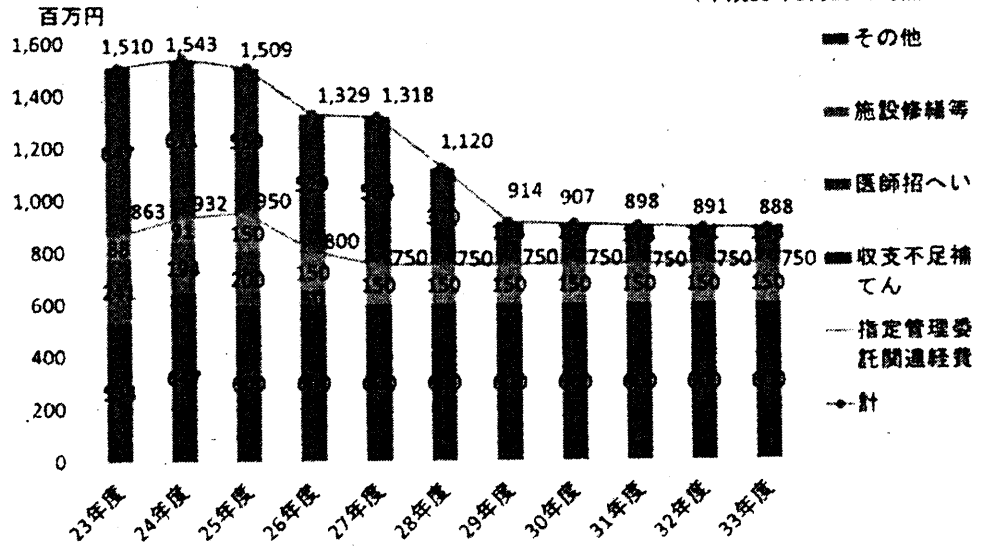
国等の関与により、確実な再生が可能な「財政再生計画」の策定が必要

具体的には、

- ・市税等の見直し(市民税、固定資産税、軽自動車税の税率の引上げ)
- ・事務事業は市民生活に必要なものだけを残して、見直しを実施
- ・公共施設の統廃合
- ・職員数の削減、給与カット(全国最低水準) など

(参考)病院事業に対する今後の繰出額の見込み

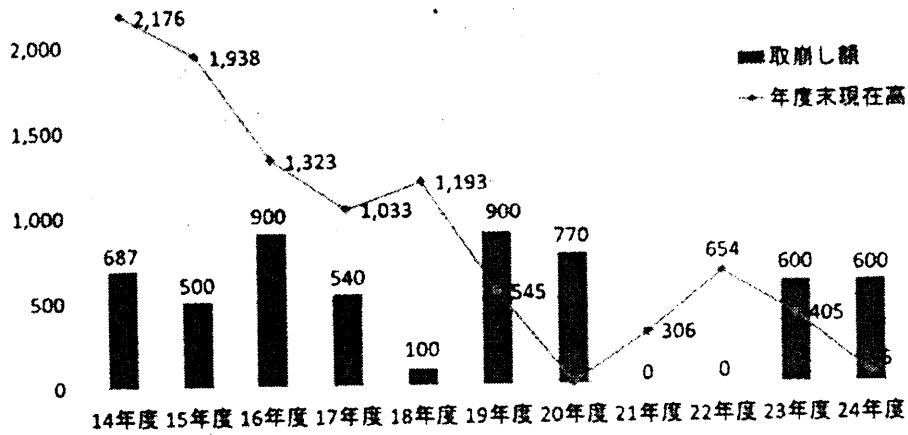
(平成25年5月15日時点)



2. 厳しい財政状況の主な要因②

○財政調整基金の枯渇(その2)

百万円 財政調整基金取崩し額及び現在高の推移(決算額)

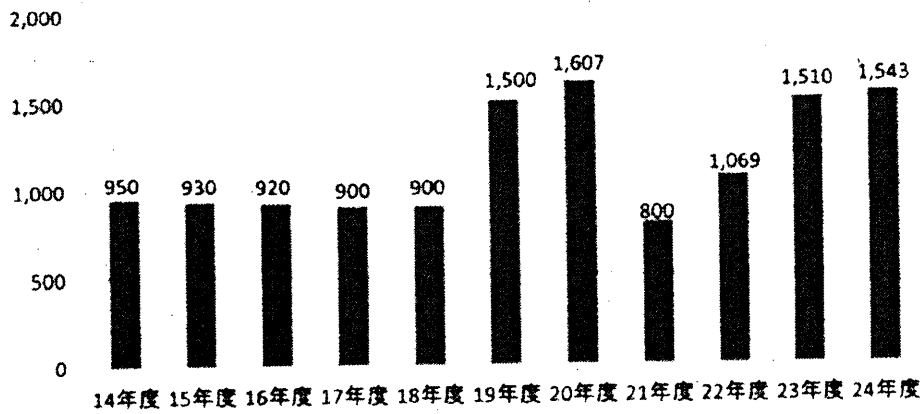


6

(参考)

○病院事業に対する繰出し

百万円 病院事業に対する繰出額の推移(決算額)

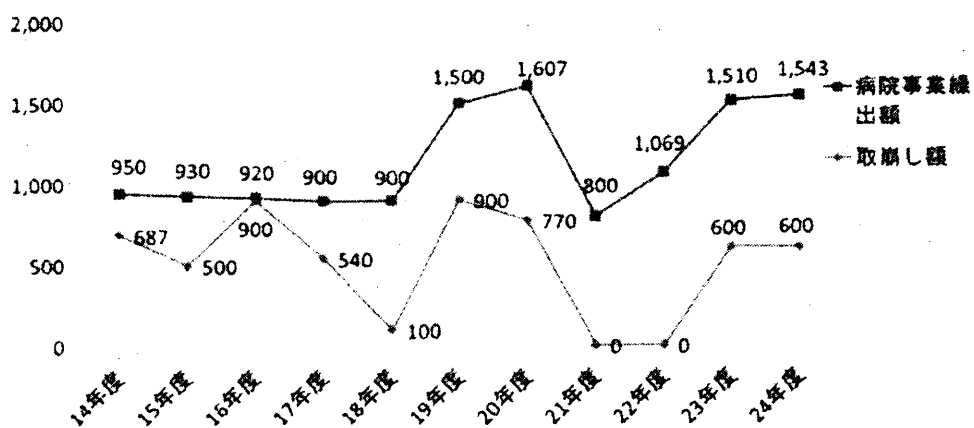


8

(参考)

○病院事業に対する繰出しと財政調整基金との関連(決算額)

百万円



9

行財政改革の取り組み

- 1 行財政改革審議会
- 2 事業仕分け (市民判定人方式)
- 3 市の対応 (行財政改革のめざすもの)

11

行財政改革の取り組み

- 銚子市は、「財政危機」と言っても過言ではない、厳しい状況
- このまま改革等を行わなければ、本年度は約6億円の赤字見通しで、その後も、累積赤字が蓄積
- 現在の財政状態は、永年の財政運営の積み重ねの結果であると、真摯に厳しく受け止め、その原因を分析、策を講じる。
- 行財政改革が必要、結果が求められている。

10

1 行財政改革審議会

【主な役割】

- 行財政改革に関する事項を調査・審議すること
- 行財政改革の推進状況について意見を述べること

【委員】 5名(学識経験者2名、有識者3名)

- | | | | |
|-----|-----------------|---------------|-------|
| 会 長 | 伊永 隆史(これなが たかし) | 千葉科学大学 副学長 | (学識者) |
| 副会長 | 加瀬 昇一(かせ しょういち) | 元銚子市監査委員 | (有識者) |
| 委 員 | 土居 丈朗(どい たけろう) | 慶応義塾大学経済学部教授 | (学識者) |
| 委 員 | 西田 美樹(にしだ みき) | 元銚子市行政改革懇談会委員 | (有識者) |
| 委 員 | 吉田 孝至(よしだ たかし) | 元銚子市教育委員 | (有識者) |

12

1 行財政改革審議会

【第1回会議】 H25.10.02 実施

- 会長、副会長選出後、市長から諮問
 - 1 平成25年度決算及び平成26年度予算へ向けて、本市が取り組むべき財政再建及びそのための行財政改革の方針及び具体的な方策について
 - 2 前号の手段として本年度に実施する「事業仕分け」の実施方法及び結果の取扱いについて
- 当日、第1次答申
「赤字決算を避けるため、本年度予算総額の5%執行留保すること」

【今後の予定】

- 事業仕分け対象事業の選定などを中心に、年内は5～6回程度の会議を開催

13

銚子市立(総合)病院の変遷

- 1 393床、常勤医35人
- 2 平成20年9月 総合病院の全面休止
- 3 22年5月再開 公設民営、指定管理契約

15

2 事業仕分け（市民判定人方式）

【概要】

- 構想日本の仕分け人が、仕分け対象事業について、公開の場で、12月下旬に、3日間程度、市の担当者と議論
- 市民判定人は、その議論を聞いて、事業判定
(1不要・凍結 2国・県・広域で実施 3要改善 4現行通り)

【構想日本の仕分け人】

- 構想日本(構想日本HPより)
日本をダイナミックで魅力ある国にしたいという思いで政策を作り、実現するための活動を行っている非営利・独立の政策シンクタンクで、事業仕分けの考案者
- 仕分け人は、構想日本が選任する、大学教授や企業経営者など

【市民判定人】（他市の例では、50名程度）

- 市民の中から無作為抽出により、参加依頼する予定

14

他病院との比較

1 非効率的な運営

16

一般会計からの繰り入れ額

- 1 平成22年度 3億4000万円
- 2 平成23年度 8億6000万円
- 3 平成24年度 9億3000万円
- 4 3年間で20億円超

危機的財政による基本協定の見直し

総務省の考え方

市の一般会計からの繰出は、独立採算原則に立って、最大限効率的な運営を行っても尚不足する、政策的医療等を対象にして行われるものであって、赤字をそのまま追認し、補てんする性質のものではない。

18

行財政改革審議会答申1 平成26年1月14日

市は銚子市立病院の指定管理者に対し、経営効率化を求めるなどの適切な対応を通じて管理監督責任を果たしてきたとはいえない。

20

行財政改革審議会答申2

市が銚子市立病院施設の管理運営に要する経費として負担する経費の総額は、5億円を超えないように努めること(25年度=10億円を5億円に減額)

21

答申を受けて、市の管理監督機能の強化

管理監督とは、経営に係る数値目標を設定し、支出に見合った医療機能を十分に発揮しているか否かを検証すること。

23

行財政改革審議会答申2

市が十分な管理監督を行い、情報公開させるよう強力に指導するとともに、指定管理者本来のメリットを活かす方策についても検討を行うこと。

22

必要かつ身の丈に合った公的医療の提供

- ◎提供可能な医療体制
- ◎身の丈に合った運営
- ◎民間では困難な政策医療
- ◎公立病院が果たす役割とは・・・

24

銚子市立病院の方向性を検討する委員会

- ◎2月からスタート
- ◎これまでの運営の問題点を分析・評価
- ◎地域の医療ニーズの分析
- ◎市立病院の方向性の検討

25

◎市民の皆さまとともに、地域医療と銚子市立病院のあり方を考えましょう！

◎活発なご意見をお願いします。

27

市立病院の役割は何か？

- ◎香取海匠医療圏の位置付け
- ◎旭中央病院、医師会等との連携
- ◎市民生活を支えるための医療
- ◎医療・保健・福祉の連携